

コルチャック先生：講演と映画の集い

講演「コルチャック先生の思想と生涯～子どもをいかに愛するか」

講師：塚本智宏（東海大学教授）

映画『コルチャック先生』1990 アンジェイ・ワイダ監督

会場：札幌エルプラザ 4F 大研修室

入場無料・予約不要

日時：2018年3月24日（土）13:30～16:50



1918年、今からちょうど百年前、Dr.コルチャックは『子どもをいかに愛するか』という本を出し、“子ども”は「不思議で生命に満ちあふれ、予期し得ぬ点で最高の輝きをもつ」「現代の学問が“知らない”そういう独創的なものを理解し、愛することを伝えたい」と述べました。

この本で彼は、それまでの人生で小児科医や青少年養育ボランティア活動家、孤児院の院長として「肉眼で」、つまりだれもができるやり方で観察してきた、赤ん坊から青年までの子どもたちについて、深く書き記しています。



彼はこの本のずっと前から、子どもにはおとなが軽視している人間的価値があると考え、ポーランド独立を機におとなたちがそれぞれ自分の権利を叫ぶ中で、社会における子どもの権利を訴える、子どもの権利擁護官の立場をとりました。

そういう彼の思想と生涯を振り返ると、彼の晩年を描いたアンジェイ・ワイダ監督の映画『コルチャック先生』、とりわけ強制収容所に向かう“最後の行進”のシーンは、子どもの人間としての尊厳を訴えるコルチャックという人間（大人）の生き方を後世の人々の目に焼き付けるものとなりました。

講演と映画上映に先だって一週間ほど、彼の思想や生涯についてのパネル展示も行います。ぜひ足をお運びください。（塚本智宏）

先行開催

〈パネル展示〉コルチャック先生の思想と生涯

～子どもをいかに愛するか～

会場：札幌エルプラザ 2F 交流広場（北8西3, JR札幌駅北口徒歩3分）

日時：2018年3月16日（金）～24日（土）8:45～22:00（日・祝20:00）

塚本智宏（つかもと・ちひろ）

東海大学教授、教育学博士、専門分野：西洋教育史・子ども史、著書「コルチャック：子どもの権利の尊重～子どもはすでに人間である」（子どもの未来社、2004.6）ほか、コルチャック先生の教育・子どもの権利思想を中心に20世紀前半以降の子どもの権利に関する教育思想や制度の歴史を研究している。

アンジェイ・ワイダ（Andrzej Wajda, 1926–2016）

ポーランドの映画監督、『地下水道』1956、『灰とダイヤモンド』1958などで映画界の「ポーランド派」の代表的存在となる。

『大理石の男』1976、『鉄の男』1981、『カティンの森』2007など話題作多数。1989年の自由選挙では「連帯」候補として上院議員に当選。親日家として知られ、1987年に京都賞、1996年に高松宮殿下記念世界文化賞を受賞。

